所作・曳き踊り　平成29年12月2日(土)

秩父祭りでは屋台は国指定重要民俗文化財ですが、当日行なわれる屋台行事も国の指定です。随って屋台の上で行われる歌舞伎や所作事も国の指定であります。舞台を持つ、宮地、上町、中町、本町、の各町内ごとに街の辻や他町会所前、神社、神門前などに屋台を止めて、長唄の曲を演奏する地方連中とその曲を踊る立方により「曳き踊り」と呼ぶ所作事を奉納します。又、三日夜御旅所に於いても同じ様に歌舞伎舞踊を奉納します。踊りの前には、町内の屋台ばやし連中の手により、所作太鼓が打ち込まれ、また、所作事の前後には、屋台の舞台装置である緞帳の上げ下げにより、所作の始めと終りを表すのであります。記録では、明治初期頃より秩父の師匠達から、踊りのけいこを重ねた町内の子女達により奉納され、現在では、屋台各町から委嘱をうけて、花柳志寿代・杵屋正十郎一門が行っています。

○上町屋台（秩父神社→上町）

長唄　雨の五郎

立方　時致　関川　妃奈（六才）

本名題「八重九重花姿絵」（やえここのえはなのすがたえ）といい、十代目杵屋六左衛門作曲です。曽我兄弟のあだ討を題材にしたものを「曽我物」といって数多く有り、その内の一つの作品で、五郎が恋人の化粧坂少将のもとへ日毎に通う道中を舞踊化したものです。傘をさして巻手紙を読む振りに使われる手紙は「天紅」といって（上側を紅で染めてある手紙）彼女よりのラブレターを意味します。荒事風の「剛」と和事風の「柔」が巧みにミックスされています。踊り手にとりまして少年らしく、少年の気持ちで演じる事が重要とされています。

長唄　浅妻船

立方　白拍子　赤岩　麻里（高一）

本名題「浪枕月浅妻」（なみまくらつきのあさづま）といい、滋賀県米原町浅妻の土地に因んだ渡し船で英二蝶と言う江戸時代の画家が描いた烏帽子、水干姿の白拍子が船の中を遊びの場として旅人を誘惑したという絵で広く知られる様になり舞踊化したもので歌詞「誰に契りを交して色を…」略、等歌詞の内容が色っぽく、戦時下では、士気をそそぐと言う事で軍部より上演禁止令が出た事もありますが、逆に作品内容は品の良さが主眼となっており、玄宗皇帝と楊貴妃の恋の情景を踊り、鼓、羯鼓、振り鼓、中啓等の踊りなど華やかでしっとりとした作品です。

○中町屋台（上町→秩父神社）

長唄　羽根の禿

立方　勅使河原　路華（小二）

本名題「春昔由縁英」（はるむかしゆかりのはなぶさ）といい、初代杵屋正次郎の作曲、天明五年（一八七五）初演で五変化所作事の一つとして演じられました。愛らしい出のくだり又クドキの中では廓でのつとめを踊り、作法のつらさなどが内容です。正月の妓楼らしく見世先で羽根をつきます。曲詞「文がやりたや…」の処は古謡を挿入してあります。

長唄　近江のお兼

立方　高野　彩葉（中二）

本名題「閏茲姿八景」（またここにすがたのはっけい）といい「晒女」（さらしめ）とも言います。滋賀県の琵琶湖畔の堅田浮見堂附近にたらいを持ち洗濯に来たお兼が暴れ馬の手綱を取り押さえたという大力の娘の伝説を舞踊化したもので、相撲の振りや近江八景を詠み込んでいます。終盤洗濯した布晒を派手に振って段切となります。木曽義仲の愛妾の巴御前の娘の時代が主人公だという伝説もあります。作詞桜田治助、作曲は四世杵屋六三郎で文化十年（一八一三）江戸の森田座で七世市川団十郎により初演した事から団十郎娘とも言われております。

○本町屋台（秩父神社→上町）

長唄　舞妓

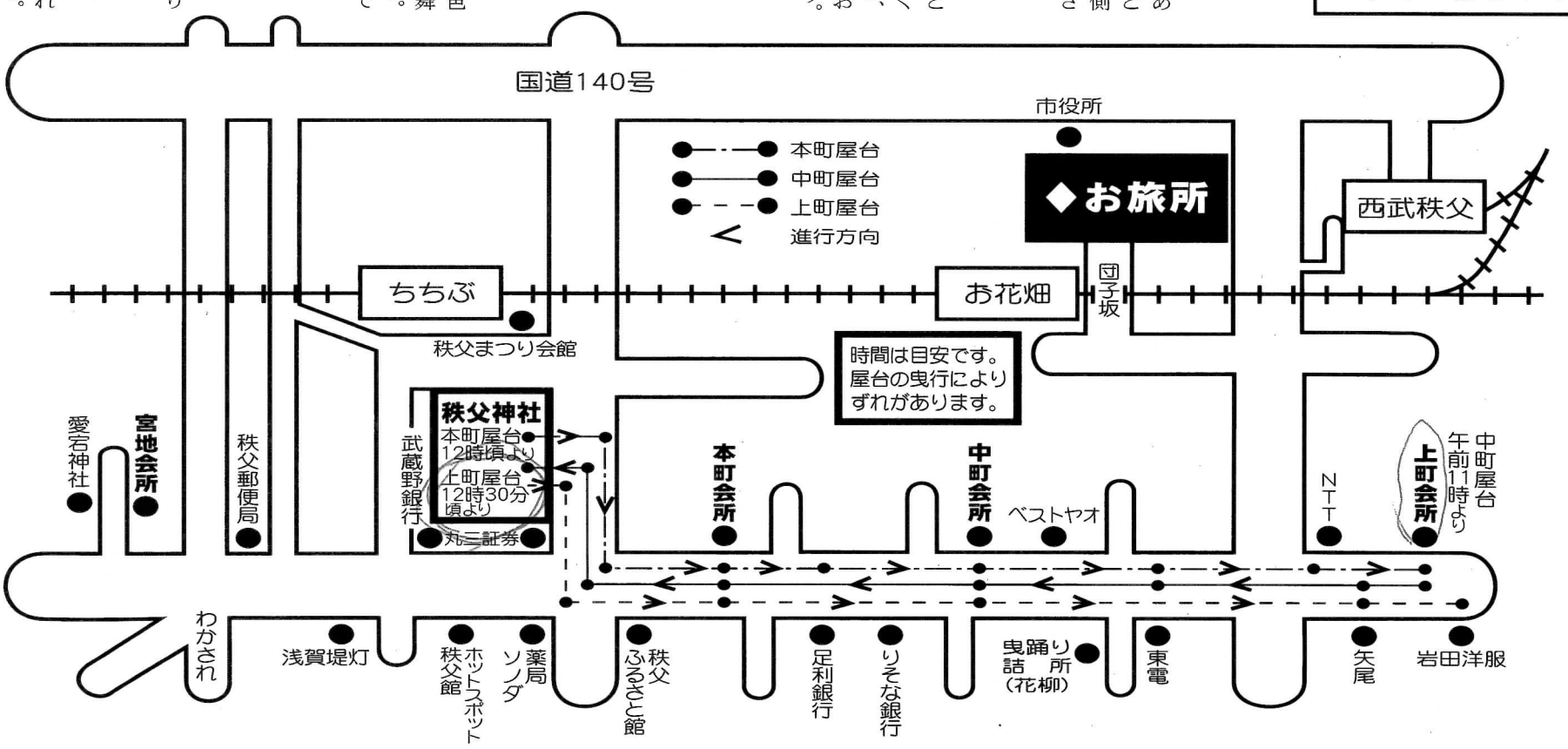
立方　山田　佳穂（中三）

春らんまんの桜の名所へ舞妓が花見に行っている趣向で始まります。曲の中に「京の四季」という祇園でも余りにも有名な端唄を取り入れて、四季折々の京の名所など唄に連れて可愛く舞います。

長唄　手習子

立方　小野田　由芽（高一）

本名題「杜若七重の染衣」（かきつばたななえのそめぎぬ）で初代杵屋正次郎の作曲です。内容は桜の花の咲き乱れるのどかな春の野道で寺子屋帰りの町娘が道草する姿を描いたもので、曲も振りもあどけなく巧く出来ております。曲詞「言わず語らぬ…」の処は「京鹿子娘道成寺」の鞠唄に振りを少々変えて取り入れております。



明日12月3日の予定が裏面にあります。どうぞ裏面もご覧ください。

『所作・踊り・三味線の習いたい方』…問合せ先　TEL/FAX兼用　0494(22)0038　花柳志寿代　日本舞踊教室　杵屋正十郎　長唄三味線教室

所作・曳き踊り　平成29年12月3日(日)

○宮地屋台（宮地愛宕神社→秩父神社）

長唄　舌出し三番叟　　立方　千歳　横川
　　三番叟　横川　青空（高二）　海（中一）

本名題「再春菘種蒔」（またくるはるすずなのたねまき）といい、二代目杵屋正次郎作曲です。落語「定九郎」（仮名手本忠臣蔵六段目、定九郎話）話の主人公中村仲蔵が揉出しの音に浮かれて舌を出したのでこの名があります。後に仲蔵は志賀山万作を名乗ったので「志賀山三番叟」或は「種蒔三番」ともいいます。天下泰平、五穀豊穣、国土安穏etc願う神事趣向が強く、新築落成の柿葺落しに演じられます。古式歌舞伎では開演前に奉納するのが三番叟であり、御旅所の所作奉納の先陣を切る宮地屋台が、なぜ舌出し三番叟なのかという理由も納得出来る思いが致します。愛宕神社、秩父神社、御旅所の三ケ所に於ける一段づつの上演は「宮地の三々番」と称しまして宮地の特色でもあります。尚、道中を含め七ケ所で演じられるのは七ツ井戸にそれぞれ奉納すると言われております。

○中町屋台（上町→本町）

長唄　羽根の禿（かむろ）　　立方　勅使河原　路華（小二）

解説文は二日中町屋台に同じ

長唄　浅妻船　　立方　白拍子　赤岩　麻里（まり）（高一）

解説文は二日上町屋台に同じ

夜・御旅所斉場にての奉納舞（午後10時頃より）

○宮地屋台

長唄　舌出し三番叟　　立方　千歳　横川
　　三番叟　横川　青空（せいら）（高二）　海（まりん）（中一）

※解説文は三日宮地屋台に同じ

○上町屋台

長唄　手習子　　立方　小野田　由芽（ゆめ）（高一）

※解説文は二日本町屋台に同じ

○中町屋台

長唄　浅妻船　　立方　白拍子　赤岩　麻里（まり）（高一）

※解説文は二日中町屋台に同じ

○本町屋台

長唄　近江のお兼　　立方　髙野　彩葉（いろは）（中二）

※解説文は二日中町屋台に同じ

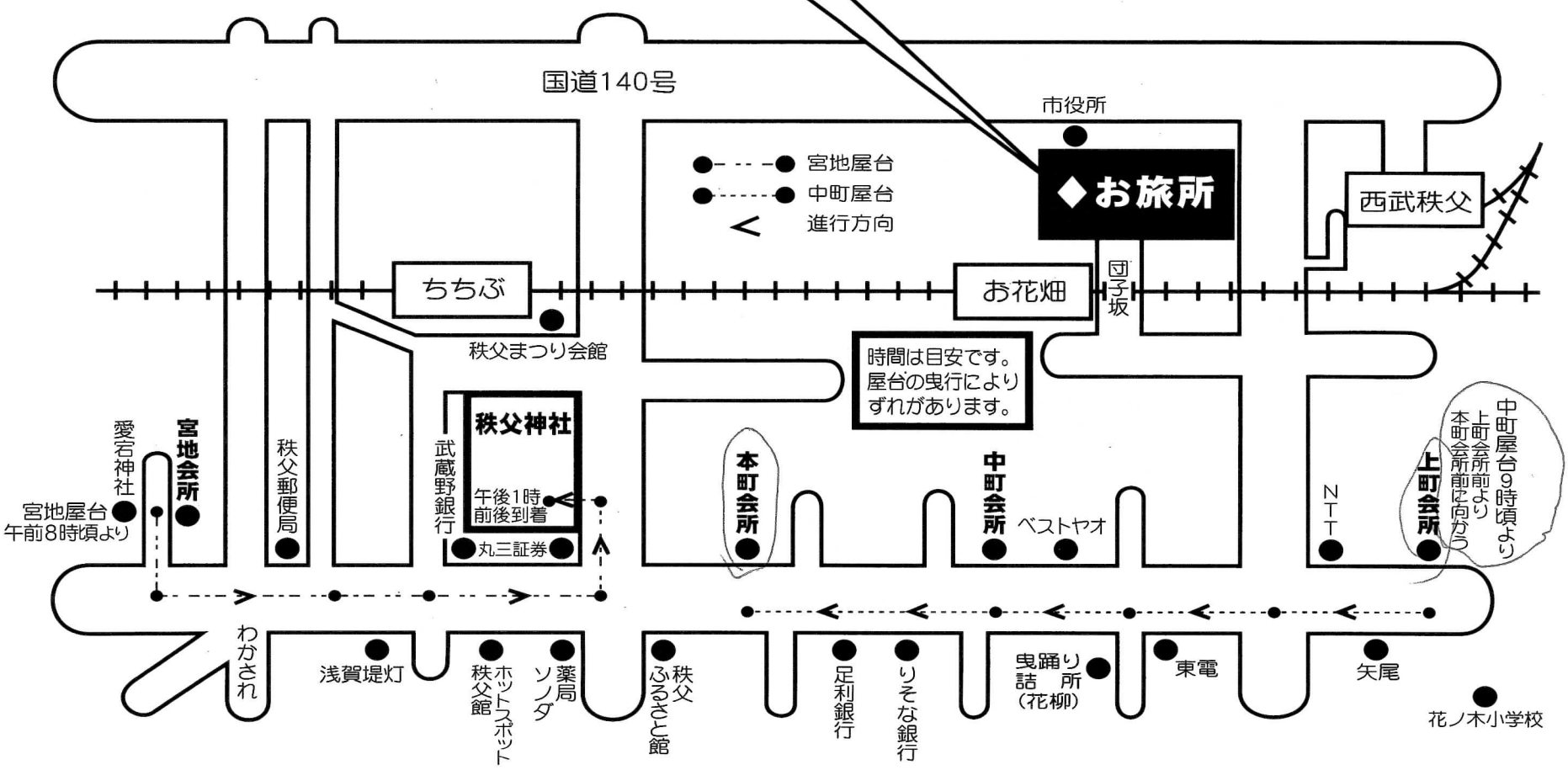
御旅所での奉納舞はすべての屋台が曳上がり交通規制が解除になった後でご覧頂けます。どうぞごゆっくりご観覧下さい。（午後10時頃より）

（長唄連名）
杵屋　正十郎
杵屋　正五郎
◇　◇
杵屋　正美英
杵屋　正美貴
杵屋　正千笑

（長唄連名）
髙野　恵美
設楽　晶子
吉田　温子
福島　英一
赤岩　慶久
井上　史恵

（後見）
花柳　志寿代
◇　◇
花柳　志寿咲
花柳　志寿蘭

（スタッフ）
かつら　大阪屋（東京）
床山　板中島
衣裳　㈱総合衣裳坂（東京）
顔師　いのまた雅人（東京）
小道具　尾堀永村（東京）



『所作・踊り・三味線の習いたい方』…問合せ先　TEL/FAX兼用　0494(22)0038　花柳志寿代　日本舞踊教室　杵屋正十郎　長唄三味線教室